(C)十勝毎日新聞社

高木美帆ジュニア世界一

スピードスケートの世界ジュニア選手権は3日、明治北海道十勝オーバルでオールラウンドの最終2種目を行い、高木美帆（17）＝帯南商高2年＝が初の総合優勝を遂げた。日本女子では石野枝里子（日本電産サンキョー―白樺学園高出）以来、6人目のジュニア世代世界一となった。3種目まで総合2位を保ち続けていた高木は、最終種目で前回覇者を逆転。韓国勢の追い上げも振り切った。

（14面に関連記事）

日本女子８年ぶりの総合優勝を果たした高木美帆（帯南商高）。金メダルとばん馬の人形を手に喜ぶ（折原徹也撮影）